

こんにちは。Cブロックの成田です。

今回は利用者さまに対して、職員側がどのような支援の取り組み方をしているのか紹介します。

普段ですと、担当の職員がアセスメントや普段の生活、特性等を参考に、同じブロックの職員と相談のもと支援計画を作っています。計画したものを実施し、結果をもとに担当の職員が次の方向性を決定する、というのが主な流れになります。今回お話するのは、この流れに加えて、札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」さん（以降「おがるさん」と表記）のコンサルテーションを受けての取り組みです。おがるさんは、相談支援の対応や、人材育成、発達障がいの正しい理解を得られるよう普及啓発などを行っている機関です。

まずは、利用者の現状を確認する作業から行っています。現状を把握したうえで、本人にとって苦しいと感じるところは何なのか、改善や改良を加えるとしたらどの部分なのか等を話し合います。おがるさんは様々なケースの相談等を行っているため、多角的な視点を持ってアドバイスをしてくださいます。アドバイスを参考に特に目立つポイントに重点を置き、一定の期間を設けてそのポイントに対してのアプローチを図ります。およそ1~2か月程度の期間を設け、その期間で行った内容を次回の集まりの時に発表しています。その結果をもとに良かった点や改善点を再び検討し、次回に繋げていきます。

現在、余暇活動中に見通しを持つのが難しい方のケースについて、おがるさんとのコンサルテーションを交えて計画、実践をしています。主軸となるポイントは、

- ・日常とは違う場所でのトレーニングを行う
- ・時間の経過がわかるグッズを導入する
- ・活動の終わりを明確にする

という3点になります。導入したからといってすぐに改善に向かうわけではありませんが、本人が苦しいと感じている部分を少しずつでも解消していくことが、本人のより良い生活に繋がると考えます。

普段の取り組みに比べ、より経験豊富なおがるさんのアドバイスのもとで動ける、自身の行った支援内容の評価を直接聞くことができるなど、利用者はもちろんのこと、職員の成長につながる要素が多数あります。

先はまだまだ長いですが、じっくり腰を据えて、取り組んでいこうと思います。

ここまでご覧いただきありがとうございます。利用者の方を始め、職員一同さらなる成長を目指し、励んでいきます。



こちらが活動エリアになります。3段ボックス内の上から順に、自立課題、余暇活動、自立課題と行っただきます。



こちらは打ち合わせの風景になります。予め要点をまとめて、それをもとに話し合いを進め、次回に繋がります。